

2025年度 研究成果報告書

所属機関名	大分大学
申請者氏名	佐藤 慶治
分担者氏名	城佳世
研究課題名	九州地域の子どもが主体となった伝統的裸祭りの教育的効果に関する調査



沖永良部島における地域関係者への聞き取り調査



嘉穂高校「ストーム」の関連資料

【研究の概要】

本研究は、九州地域において児童生徒が関わる裸祭りや神事相撲等を対象に、地域文化が子どもの成長や共同体形成、学校教育とどのように関わっているかを明らかにすることを目的として実施した。文献調査に加え、嘉穂高校の伝統行事「ストーム」、熊本県玉名市の的ばかい、鹿児島県沖永良部島の世並蔵神社奉納相撲および小学校における相撲大会・伝統芸能教育、大分県中津江地区の麦餅つき祭り、福岡県久留米市のへこかき祭り等を対象として、参与観察および地域関係者・学校関係者へのインタビュー調査を実施した。その結果、児童生徒が関わる身体文化には地域ごとに多様な継承形態が存在すること、また学校教育が地域文化の継承に重要な役割を果たしている事例が確認される一方、少子化やコロナ禍、社会的価値観の変化に伴い、実施形態の変更や終了を余儀なくされている事例も明らかとなった。さらに、裸祭りに限らず、地域の伝統文化全体と学校教育との関係を総合的に捉える必要性が示唆され、新たな研究課題を見出すことができた。

【研究の内容及び成果の詳細】

1. 研究内容及び成果（本研究によって得られた新知見、成果等）

本研究では、九州地域において児童生徒が関わる裸祭りや神事相撲等の身体文化を対象として、文献調査と現地における参与観察、さらに地域関係者及び学校関係者へのインタビュー調査を組み合わせながら研究を進めた。従来、裸祭りに関する研究は民俗学や宗教学の立場から祭礼そのものを対象とするものが多く、学校教育との関連性や児童生徒の参加という観点から整理した研究は限られている。本研究では、教育学の視点から地域文化の継承と学校教育との関係性を明らかにすることを目的として調査を実施した。

まず、文献調査では、国立国会図書館等において裸祭りや神事相撲、地域文化の継承に関する先行研究を収集するとともに、国内外の地域文化・共同体形成に関する研究成果を整理した。その結果、裸祭りに関する研究は数多く存在する一方で、児童生徒の参加実態や学校教育との関係を横断的に比較した研究は極めて少ないことが確認された。

現地調査では、福岡県嘉麻市（嘉穂高校）の伝統行事「ストーム」について、卒業生へのインタビューを実施した。「ストーム」は男子応援団員が禪姿で学園祭の夜に実施していた学校行事であり、応援団員は福岡市の博多祇園山笠へ参加して禪の締め方や所作を学んでいたことが明らかとなった。一方、同行事はコロナ禍以前に終了しており、学校文化として継承されてきた身体文化が社会状況の変化によって失われた事例として位置付けられることが確認された。

熊本県玉名市では、「的ばかい」に実際に参加し、参与観察を行うとともに、複数の参加者への聞き取り調査を実施した。文献のみでは把握することが難しい祭礼運営の実態や参加者相互の関係性、地域住民が祭礼に見出している価値について具体的な知見を得ることができた。また、児童期の参加経験が地域共同体への帰属意識の形成や世代間継承と深く関わっていることが示唆された。

鹿児島県沖永良部島では、世並蔵神社における神事相撲について、地域関係者へのインタビュー調査を実施した。その結果、少子化や保護者意識の変化などにより、近年は実施が以前より困難になっている現状が明らかとなった。一方で、地域住民は神事相撲を単なる伝統行事ではなく、子どもの成長や地域共同体への帰属意識を育む重要な教育機会として捉えていることが確認された。また、和泊町内の小学校では、沖永良部島で唯一校内相撲大会を継続している学校について校長への聞き取り調査を実施したほか、複数の小学校を訪問し、相撲だけではなく棒踊り、ヤッコ踊り、島言葉など多様な地域文化が教育課程や学校行事へ位置付けられている実態を確認した。これらの調査から、学校が地域文化の継承主体として重要な役割を果たしていることが改めて明らかとなった。

また、大分県中津江地区では、中津江神社で実施される「麦餅つき祭り」に参加し、参与観察を実施するとともに、主催者への聞き取り調査を行った。本祭礼では地域小学校の全校児童が参加している一方、参加の男子児童は、希望する場合、水着の上から禪を締めるなど、現代的な社会状況や学校現場への配慮を踏まえた運営上の工夫が確認された。これは、伝統文化が現代社会に適応しながら継承されている具体例として重要な知見である。

さらに、福岡県久留米市の「へこかき祭り」においても参与観察を行い、主催神社の宮司へのインタビューを実施した。今年度は児童の参加は見られなかったものの、外国人技能実習生を含む多様な参加者が祭礼を支えている現状が確認され、地域文化の担い手が時代とともに変化していることが明らかとなった。

以上の調査を通じて、本研究では、児童生徒が関わる身体文化には、「学校行事として継承されるもの」、「地域祭礼として継承されるもの」、「学校と地域が連携して継承するもの」など、多様な継承形態が存在することが確認された。また、それらは少子化やコロナ禍、コンプライアンスへの配慮などの社会的要因によって実施形態が変容しており、一律に衰退しているのではなく、地域ごとに異なる工夫を重ねながら継承されていることが明らかとなった。さらに、本研究を進める中で、裸祭りのみを対象とするのではなく、学校教育に地域の伝統文化がどのように取り入れられ、あるいは失われつつあるのかという、より広い視点から比較研究を進める必要性が明確となった。この点は、本研究によって得られた最も重要な新たな知見の一つであり、今後の研究を発展させる重要な基盤になるものと考えられる。

2. 今後の研究の見通し

本研究では、九州地域における児童生徒が関わる裸祭りや神事相撲等を対象として調査を進めた結果、地域文化の継承を考える上では、裸祭りのみを個別に分析するのではなく、学校教育が地域文化全体の継承に果たす役割について、より広い視点から検討する必要性が明らかとなった。民俗学的に祭礼そのものを記述するだけでは把握することが難しい、学校教育と地域文化との関係や、児童生徒の参加を通じた共同体形成の意義について、多面的な知見が得られたことは、本研究の重要な成果である。今後は、これらの成果を基盤として、教育学の視点から地域文化の継承について体系的な研究を進めていきたい。

まず、沖永良部島については、2026年8月に学内研究費を活用し、世並蔵神社における神事相撲大会実施の参与観察を実施するとともに、実際に参加した児童へのインタビュー調査を予定している。また、校内相撲大会を継続している小学校についても、教育課程との関連性や教育的意義について追加調査を行う予定である。これらの調査を通じて、学校教育と地域祭礼がどのように連携しながら文化継承を支えているのかを、より具体的に明らかにしたい。

また、大分県中津江地区においても、「麦餅つき祭り」に参加している小学校の校長及び児童への聞き取り調査を、本年9月以降に予定している。児童が地域行事へ参加する教育的意義や、学校と地域住民との役割分担、さらに近年の社会状況を踏まえた運営上の工夫などについて調査を進めることで、地域文化が現代社会へ適応しながら継承される過程について検討したい。

さらに、論文執筆に当たっては、現地調査だけではなく、新聞資料を活用した歴史的検討を進める予定である。具体的には、南日本新聞データベースを利用し、世並蔵神社相撲大会に関する過去の記事を収集・整理するとともに、大分県立図書館所蔵の大分合同新聞バックナンバーを調査し、中津江地区の「麦餅つき祭り」について過去の報道を整理する予定である。これにより、現在の祭礼の姿だけではなく、その成立や変遷、児童参加の経緯、地域社会との関係性などについて時系列で分析することが可能になると考えられる。参与観察やインタビューによる現状分析と新聞資料による歴史的分析を組み合わせることで、地域文化の継承過程をより立体的に考察したい。

本研究の成果は、2026年11月刊行予定の『総合文化学論輯』に投稿予定の2編の論文へ反映する予定である。沖永良部島における学校教育と伝統文化との関連性を扱う論文では、神事相撲と学校教育との関係を中心に分析を行い、九州

地域の裸祭り文化に関する論文では、嘉穂高校「ストーム」、玉名「的ばかい」、久留米「へこかき祭り」等を比較しながら、児童生徒が関わる身体文化の類型化を試みる予定である。

さらに、本研究を通じて、地域文化の継承には、相撲や裸祭りだけではなく、棒踊り、ヤッコ踊り、島言葉など、多様な伝統文化が学校教育の中に位置付けられている事例が確認された。一方で、地域によっては伝統行事そのものが終了している例も確認されている。今後は、裸祭りを研究対象とするだけではなく、学校教育は地域文化をどのように継承しているのか、あるいは、どのような地域文化が学校教育から失われつつあるのか、という視点から比較研究を進める予定である。学校教育を地域文化継承の重要な主体として位置付け、その役割や課題を教育学の立場から明らかにすることは、地域社会における文化継承のあり方を考える上でも重要な意義を有すると考えられる。本研究を出発点として、九州地域全体を対象とした学校教育と地域文化継承の比較研究へ深化させ、教育学における研究の発展に寄与したい。

3. 本年度の学会発表・論文、刊行物・著書名等（今後、発表等を予定しているものも含む。）

本研究の成果については、2026年11月1日刊行予定の『総合文化学論輯』（総合文化学会）に、以下の2編を投稿予定である。

1. 「沖永良部地域の学校教育と伝統文化との関連性―相撲文化を中心に―」（仮題）、『総合文化学論輯』、2026年11月1日刊行予定。
2. 「九州地域の児童生徒が関わる裸祭り文化の分類と考察」（仮題）、『総合文化学論輯』、2026年11月1日刊行予定。

第1論文では、沖永良部島における学校教育と地域の伝統文化との関係について、学校で実施される相撲行事および地域の奉納相撲を中心に、現地調査の成果を報告する。第2論文では、九州各地にみられる児童生徒が参加・関与する裸祭りや相撲行事を整理・分類し、その実施主体、学校との関係、教育的機能、文化継承上の課題について比較考察する予定である。

なお、上記論文の成果については、今後、関連する教育学・文化研究分野の学会においても発表することを予定している。